

経済情勢

概観

1. 横ばい景況の世界経済に忍び寄るインフレ

世界経済は相変わらず横ばい景況を脱していないにかゝらず、米国をはじめ西欧各国では賃金所得の上昇と生計費の増加から忍び寄るインフレの進行が一般の注視を浴びつつある。特に最近米国でやかましいインフレ論争や、英国ソーニークロフト蔵相の所得・コスト・価格の客観的分析のための中立的機関設置案などにみられるごとく、賃金、物価のらせんの上昇問題がインフレ処理に関連して大きく取り上げられている。

また昨年末ごろより受取超過に基調転換を示した米国の国際収支は、本年に入つても輸出の好調を反映してその傾向を改めず、各国の金ドル準備は悪化をたどっているが、さらに昨年各国のドル不足緩和に寄与した米国の対外民間投資が、本年は昨年を下回ることが懸念されている。

かゝる情勢の下において、各国の経済施策が引締維持強化の方向に動きつつあることは当然のことであり、スエズ危機を克服し、最近ようやく生産の回復を示すに至つた英国では、政府当局が国内にみられる賃金・物価の上昇に強い警告を発し、フランスにおいては、フランス銀行再割限度の引下げ、賦払信用の抑制強化、財政支出の削減、増税などの引締措置を断行、さらにスウェーデンでは公定歩合の引上げが行われた。

欧州共同市場は、最も難関と目されていたフランス国民議会が7月9日これに承認を与えたことにより、予定通り明春発足の可能性が大きくなつたわけであるが、経済危機に直面しているフランスをその主要メンバーとしているだけに、その成行きには大きな関心が払われている。

2. 銀行貸出の増勢ようやく鈍化

金融引締政策の影響は、いわゆる総合施策の実施決定に伴う心理的効果も加わつて流通段階を中心に漸次浸透をみつつある。まず6月の卸売物価は前月に引続き0.4%の低落を示し、商品市況はほとんど全面安の状況となり、なかんずく鉄鋼や非鉄の市中相場はひところの半値以下に落ち込ん

だ。金融の引締りとともに先安人気が高まっているため、流通部門における在庫調整の動きも次第に強まる形勢にある。そのような情勢は一方における生産活動の引続く活況と相まつて生産者製品在庫を一段と増加せしめつつあるが、かかる趨勢が持続すれば、やがては生産活動も減退に転ずるに至るであろう。すでに繊維のほか一部に生産調整の動きがかなり高まつてきているのは注目を要する。また前月戦後最高を記録した輸入信用状開設高は6月に入つて大幅の減少をみせ、株式市況は遂に年初来の安値を示現した。

全国銀行貸出もさすがに増勢がかなり鈍化し、6月の貸出増加額は久方ぶりに前年同月のそれを下回つた。とくに都市銀行の増勢鈍化が著しいが、それは巨額の外部資金への依存が、異常なコールレートの高騰にもみられるように銀行経営上の大きな圧迫となりつつあることを少なからず反映しているものとみられる。

しかし以上のような情勢も設備投資の減退を招き、ひいて国際収支の安定的な均衡を確保しうるまでにはなお相当の日時を要するであろう。物価もかなりの低落傾向をたどっているとはいえ、この間海外物価も概して軟調に推移しており、国際比価関係は依然として格別の改善をみていないこと、輸入信用状開設高の減少もそれ自体必ずしも実勢を現わすものとみられないのみならず、他面輸出信用状の接受高もかなりの減少をみせているなど、まだ決して楽観を許す段階ではない。

3. 3億ドルの外貨借款

6月中の外国為替収支じりも1億ドルを越える赤字を呈し、年初来の赤字累計は実質520百万ドルに達した。この情勢に伴う当面の外貨不足をカバーするため、政府はIMFから125百万ドル、ワシントン輸出入銀行から175百万ドル、合計3億ドルの外貨借款を受入れることとなつた。これはもとより外貨資金繰り上の応急措置であり、これによりいさゝかも安易感が醸成されるがごときことがあつてはならない。